

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 院長挨拶

※令和8年6月1日より「西宮渡辺夙川南病院」へ病院名が変更になります

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院は、心臓および脳血管疾患に特化したリハビリテーション専門病院として、2018年、前浜町の4階建ての複合施設「ハートケア西宮わたなべ福祉の郷」内に開院しました。34床の回復期リハビリテーション病棟を備え、365日体制で専門的かつ集中的なリハビリテーションを提供しています。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が定期的なカンファレンスを行い、患者一人ひとりの状態に応じた個別プログラムを立案・実施しています。さらに、看護師、管理栄養士、薬剤師も参画する多職種連携カンファレンスをもとに、再発予防に向けた生活指導・栄養指導・服薬指導を行い、早期回復と在宅復帰を支援しています。

近年は基礎疾患の重複や高齢化に伴う重症例の増加がみられますが、病状悪化時にはグループ内の西宮渡辺病院および西宮渡辺心臓脳・血管センターと緊密に連携し、受診・検査・入院まで迅速に対応できる体制を整えています。これにより、急性期から回復期、在宅に至るまで途切れのない医療提供を実現しています。

2024年6月からは、本院の歯科医師および歯科衛生士による定期回診を開始し、口腔機能管理と口腔衛生指導の充実を図りました。これにより、摂食嚥下機能障害に起因する誤嚥性肺炎や低栄養の予防につながり、回復期病棟における重要な強化ポイントとなっています。

当院は西宮市脳卒中地域連携パス会議(年3回開催)に連携医療機関として参加しています。2024年7月1日から2025年6月30日までの1年間の実績では、パス適応患者数48人のうち38人が在宅復帰を達成しました。平均在院日数は48.6日で、前年の91.2日から大幅な短縮を認めています。一方、パス非適応となった患者は21人で、いずれも急性期病院へ転院となりました。これは、高齢患者の増加に伴う合併症発生や重症化傾向が影響しているものと考えています。

外来部門では、循環器内科、整形外科、皮膚科、形成外科を設置し、送迎バスを活用した外来心臓リハビリテーションを実施しています。主に西宮渡辺心臓脳・血管センターと連携し、心筋梗塞、心大血管手術後、慢性心不全患者に対する包括的運動療法および生活指導を提供しています。

また、リハビリスタッフと看護師・介護士が連携し、生活期における通所リハビリテーションにも取り組んでいます。さらに、2021年4月より西宮市医師会の休日一次内科救急当番(毎月第2日曜日8時~18時)を継続して担当し、地域の一次救急医療の一翼を担っています。

当院は、グループ3番目の病院として、2025年6月に開院7周年を迎えました。今後もグループ一体となって連携をさらに強化し、患者様の早期回復と在宅復帰の実現に向け、地域に信頼される回復期リハビリテーション病院として、医療・介護サービスのさらなる質の向上に職員一同努めてまいります。

令和8年1月吉日
西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院 院長 槌田 昌平

形成外科・美容医療センター

センター長 皐月 玲子

はじめに

形成外科・美容医療センターの開設から5年目になりました。ここまで保険診療ならびに自費診療を継続することができたことに感謝し、お越しいただいた患者様ならびに関わってくださったスタッフに御礼申し上げます。

外来診療

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	—	○	○ (第1週のみ)
14:00~17:00	○	○	○	—	○ 15:00~	● (第1週 施術のみ)
17:00~19:00	—	—	—	—	○	—

※木曜・祝日・日曜 休診

診療内容

形成外科：皮膚腫瘍、ケガやきずあと、あざ、やけど、眼瞼下垂症や睫毛内反症、眼瞼痙攣・片側顔面けいれんなどの眼瞼疾患、多汗症・腋臭症、陥没乳頭など、健康保険適用の治療・日帰り手術を行っています。

美容外科(自費)：埋没法や切開法による二重形成、まぶたのたるみ・脂肪取り手術などのまぶたの手術、陰唇形成、乳頭・乳輪縮小など、局所麻酔下での美容手術を行っています。

美容皮膚科(自費)：Qスイッチ付ルビーレーザーによるシミ治療、ライムライト(光治療)・ジェネシス(ロングパルスYAGレーザー)などの美肌レーザー、炭酸ガスレーザー、イオン導入、ヒアルロン酸・ボトックス注射、ハイドロキノロン・トレチノイン療法によるシミ・くすみ治療、各種ピーリング、ダーマペン、AGA内服、医療脱毛、高濃度ビタミンC点滴・美容内服、ピアス穴作成・ピアストラブル、化粧品販売など、効果を出すことのできる治療を厳選して行っています。

2026年1月よりミラドライによる多汗症・腋臭症治療が開始予定です。

診療実績

形成外科[保険]外来初再診数：887名
美容外科・美容皮膚科[自費] 外来初再診数：1,104名
外来初再診 総数：1,991名

主な治療件数(単位：件)

	2025年
シミレーザー (Qスイッチレーザー)	49
ほくろ・イボ除去(炭酸ガスレーザー)	100
美肌レーザー (ライムライト・ジェネシス)	94
医療脱毛	145
レーザー件数	403
ヒアルロン酸・ボトックス	114
施術(ダーマペン・ピーリング・イオン導入など)	238
施術合計	377
手術件数(保険・自費)	110
治療件数 合計	890

今年の成果と来年の目標

今年は、北京大学から1名、ニュージーランドのオタゴ大学から1名、兵庫医科大学の初期研修医2名、当法人の初期研修医1名の計5名、形成外科の臨床研修の受け入れを行いました。

美容外科やその治療が問題になることが多い昨今、「形成外科専門医」「女性医師」で検索して遠方よりお越しいただくことが増えました。ホームページやSNSが広告・宣伝に影響している結果と考え、さらに強化してまいります。

当センターは、保険治療だけでなく自費診療を社会医療法人で行っている、貴重で珍しい存在です。患者様から大きな病院だから安心して治療を受けることができるといわれることも少なくありません。地域の方々喜んでいただける形成外科・美容医療センターにしたいと思っています。

(皐月 玲子)

皮膚科

渡邊 万里依

活動内容

当科は湿疹、蕁麻疹、ヘルペス、白癬、ざ瘡、いぼ、円形脱毛症などの一般皮膚科診療を行っています。患者さんの話をよく聞き、視診、触診や皮膚科学的な検査を行い、適切な治療を十分な説明のもとに行えるよう努めています。病棟やグループホーム、老人健康保健施設への往診や多職種による褥瘡チーム回診を定期的に行い褥瘡やスキンテアの予防に取り組んでいます。

当科で実施できる検査には、ダーモスコピー、採血、検尿、アレルギー検査(パッチテスト、特異的IgE測定)、真菌検査、細菌培養検査、ABI、皮膚病理検査等があり、この多くが即日実施可能です。

心臓リハビリテーションも併設されている当院では糖尿病や末梢動脈疾患をもつ高齢患者さんも来院されます。西宮渡辺心臓脳・血管センターや当院リハビリテーション科装具外来と連携して、足の胼胝や潰瘍処置などのケアを行っています。

ほくろや脂漏性角化症などの良性腫瘍のほか基底細胞癌など皮膚癌に関してはダーモスコピーや皮膚生検にて可能な限り診断をつけて、手術が必要な症例は当院形成外科へ依頼しています。

アトピー性皮膚炎や乾癬には近年様々な新規薬剤が開発され、使用できるようになりました。治療の選択肢が広がり、たくさんの患者さんが快適な日常生活をおくることができるようになってきました。アトピー性皮膚炎を含む湿疹皮膚炎の患者さんには、まずは来院された患者さんと一緒に軟膏塗布を行って、適切なステロイド外用薬やタクロリムス外用薬等の使用量を説明しています。これらの外用薬などで症状が改善しにくい中等症から重症のアトピー性

皮膚炎や結節性痒疹の患者さんにはデュピルマブやネモリズマブなどの生物学的製剤の導入を積極的に行い、効果を得ています。

当科は、ターゲット型ナローバンドUVB照射装置を有しており、尋常性乾癬や掌蹠膿疱症、円形脱毛症、尋常性白斑等の疾患の治療に役立てています。

巻き爪には矯正治療(巻き爪マイスター)、陥入爪にはガター法を行っており、爪のトラブルに関する相談も受けています。蜂窩織炎や重症の帯状疱疹など入院治療の必要な症例は西宮渡辺病院と連携して対応しています。

来年の目標

幅広い年齢層の患者さんが安心して受診できる皮膚科でありたいと考えております。皮膚疾患は治療が長期におよぶものもありますが、少しでもよい方向に進んでいけるように皮膚科専門医として最新の知見を取り入れてまいります。

(渡邊 万里依)

リハビリテーション科(診療科)

井口 智恵

当院では、脳血管疾患を中心に、心大血管疾患、廃用症候群の回復期リハビリテーション(以下リハビリ、回リハ)を実施しております。4階に回復期病棟、1階に外来部門がございます。

2018年6月の開院から7周年を迎えました。退院後の外来通院のフォロー数も増え、お陰様で長期的な診療をさせて頂いております。

重症の方、経管栄養の方が増え、入院中管理や退院支援の際など難しい局面も時々ございますが、病院内外から幅広いご協力を頂き誠にありがとうございます。

退院後に在宅生活や復職に関わる機関とやりとりさせて頂くことも増えており、今後さらに地域への貢献や連携を進めて行けましたら幸いです。

高次脳機能障害に関して、兵庫県監修の患者家族様向けのパンフレット付属のサポートノートの活用を検討しております。

また、脳卒中後の方を中心に歩行評価を行い適切なリハビリ治療を迅速に行うための、ゲイトジャッジシステム(パシフィックサプライ)の導入を検討しております。

活動内容

入院・外来患者様のリハビリがスムーズに進むよう、各スタッフと連携を取りながら診療しております。

火曜日のボツリヌス療法外来(上肢・下肢の痙縮治療)は2025年30件(2022年13件、2023年20件、2024年30件)でした。

火曜日の装具診(川村義肢装具 義肢装具士と連携)は2025年入院54件・外来74件(2022年入院+外来111件、2023年入院102件・外来61件、2024年入院76件・外来41件)でした。

水曜日に西宮渡辺心臓脳・血管センターにて入院の方の嚥下内視鏡検査(VE)を実施しており、2025年41件(2022年19件、2023年29件、2024年29件)でした。

ご協力、ご尽力に深謝申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

来年の目標

- ・周辺機関との連携の強化
- ・退院後支援に関する機能の強化
- ・サポートノートの活用、研究
- ・歩行評価の研究

(井口 智恵)



看護部

看護部顧問 田中 ひとみ
副看護部長 宮上 智子
病棟主任 廣田 桂子

はじめに

年末に法人内は、コロナやインフルエンザのクラスターが発生しましたが、福祉の郷ではクラスターを起こすことなく年を越すことができました。

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院は、本院・血管センターの救急の増加に伴い、急性期治療後も医療的ケアを必要とする患者の受け入れもしています。高齢化も要因の一つではありますが、状態悪化にて数日で急性期へ転院を余儀なくされる件数も増えています。

また、老健施設も高齢者・認知症による誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全など医療的ニーズの高い入居者や看取りも受け入れをしています。

複合施設の強みを活かし、病院と施設との連携にて病床運営を心掛けています。

患者・家族が望む住み慣れた地域で暮らし続けたいとの願い、救急医療のひっ迫、医療人材の不足、独居・老々介護などの要因にて、対応に苦慮している状況でもあります。

他職種と協力が在宅に向けて、地域との連携を強化していくことが不可欠です。

来年度も多職種と連携し、患者・入居者・ご家族様に、回復期から退院支援を不安なく対応できるように支援していきたいと思えます。

本年度目標

- I 安全で安心できるケアを提供する
 - 1. 専門的知識を学び、看護の質の向上に努める
 - 2. 多様化、複雑化する医療に対応できる人材育成
- II 他職種協働の推進
 - 1. 施設および他職種との情報の共有
 - 2. 地域包括ケアシステムの推進
- III 生き生きと働き続けられる職場環境作り
 - 1. 多様な勤務時間への取り組み
 - 2. 新卒からプラチナナースまで生涯学習の支援
- IV 積極的な経営参画
 - 1. 経営指標に基づく病床運営
 - 2. コスト意識と経費削減

目標に対する評価

I 安全で安心できるケアを提供する

看護の質を維持するためには、毎年基本的な研修が必要とされます。感染管理・医療安全は定期的に開催し、今必要とされる課題に関して検討し開催しています。参加率は、ほぼ100%を維持していますが、本年度は、病態についての研修の調整ができず、実施することができませんでした。リハビリ期の病棟でも高齢化と医療的処置が必要とされる患者が増え、専門分野だけではない知識が必要とされます。院外研修や、伝達講習、ケアの本質・おむつの当てる方などリハビリ期・老健ならではの実践研修を行うことができました。退院指導に活かすこともできます。今後、個々の経験で学んで来た知識に加えて、新たに役割が発揮できる研修が望まれます。多様化する対象者と複雑化するニーズに答えるべき看護職の実践の能力を発揮できるような研修を実施していきたいと思えます。

II 他職種協働の推進

毎週のIPW、各委員会などで、他職種との情報の共有はできています。

看護、リハビリ、栄養管理、薬剤管理、退院調整、意思決定支援など様々な役割を専門的知識で患者中心のカンファレンスを実践しています。

また、必須研修でもある医療安全・感染・防災など院内研修も職種を問わず福祉の郷全体で共有しています。

在宅支援は、担当看護師、MSW、地域のCMなど関係部署との連絡体制も充実しており、入院時や入所時在宅に向けてのカンファレンスには、当院他職種と地域関連の担当者として定期的に開催しています。退院後も相談できる体制づくりを心掛けています。

III 生き生きと働き続けられる職場環境作り

一昨年からは、2階ハートケアは新体制になり、3階ハートケアへは、応援体制となりました。育休からの復帰で時短勤務、日勤常勤、夜勤専従など様々な働き方に考慮しながら、調整しています。また、急な欠員など人手不足で難渋することもあります。病棟、外来、ハートケア応援体制で調整しています。

法人看護部からの移動になった看護師も含め、前年度の離職率は15%でした。

個人の思いと体調不良も重なり、働き方の調整はしたのですが、残念な結果となりました。

できる範囲でフォローを行い、退職者が出ないように調整していきたいと思います。

IV 積極的な経営参画

毎週の病床運営会議、各病院と地域連携室との連携で病床利用率100%を目標に調整を行っています。リハビリの継続と治療の継続、在宅支援を実践するためスピード感ある環境でベッドコントロールを行っています。

受け入れるスタッフに対して、ベッドコントロールを担う看護管理者によるきめ細かなフォローが欠

かせません。スタッフにとって、急性期治療からの在宅支援の視点を身に付ける必要があり、そのための支援は欠かせません。病院の運営方針を共有し、協力体制で調整していきたいと思います。

来年の目標

他職種及び地域医療と連携しながら、退院支援を行う職場環境を整え、働きやすい環境を作る
複合施設の強みを生かし患者、入居者が安心して療養できる環境を提供する

(田中 ひとみ)

回復期リハビリテーション病棟

令和7年 病棟目標

- I. 医療安全への意識向上を図り、安心、安全な看護を提供する
- II. 多職種協働の推進

活動内容と評価

- I. 当病棟に入院される患者様は高齢で高次脳機能障害のある方が多く入院されています。インシデント事例の多くは転倒や与薬でした。日々カンファレンスを行い、ADLや認知機能を評価しリスク要因を明確にして、患者個々に合わせた対策、統一した対応が行えるよう努めました。また昨年度に引き続きヒヤリハット報告を積極的に行い、これに対してもカンファレンスを行い、業務変更の見直しも行いました。

感染予防対策については、感染委員会を中心にアルコールジェル使用量の把握に加え、今年度は直接観察法を導入し、必要に応じて声掛けや注意喚起を行いました。これにより、使用量を増やすだけでなく、正しいタイミングでの手指衛生を行うことができ、病棟全体の感染対策に対する意識向上につながったと考えます。

- II. 入院される患者様は高齢であったり、重症度の高い方が多く、今年度はそれに加えて自宅環境が整っていないケースや独居の方が増え

てきました。リハビリテーションで状態が改善しても、脳疾患の後遺症による麻痺や高次脳機能障害により自宅での生活が困難なことが多くみられました。

そのため、昨年度に引き続き入院前から情報収集を行い、多職種と連携して毎週IPWを実施し情報共有を行い、患者様の状態や課題に応じてカンファレンスの回数や内容を調整しました。そして、退院時のADLに合わせながらも、その人らしい生活が継続できる場所を見据えて退院支援調整を行いました。その結果、今年度も在宅復帰率の維持、重症患者における日常生活動作の改善について、施設基準を満たすことができました。

来年の目標

多職種と連携し、在宅復帰を意識した退院支援ヒヤリハット報告件数を増やし、インシデント事例の件数を減らす
職員個々が感染予防対策について意識しながら看護を提供する

(宮上 智子)

薬剤部

主任 林 香織

薬剤師の業務は、調剤や服薬指導業務が主に感じられるかもしれませんが、医薬品に関すること全般に亘ります。医薬品の有効性・安全性確保のためDI業務（DI-NEWSの作成・配信、RMPの配信、問い合わせ内容や副作用報告の収集と配信）、購入から交付を含めた品質等の管理、使用量から見た在庫管理や使用期限の確認、採用薬の選定・削除・切り替えを含めた医薬品管理業務を行っています。院外で実施される感染対策の勉強会にも年4回参加しています。

当院では外来患者様に、積極的に院内処方を行っています。これは近隣に調剤薬局がないことや、調剤薬局に行く手間が省け自己負担金額も軽減できること、さらに電子カルテで診療内容を把握し的確に服薬指導を行うことができるというメリットがあります。

外来の心臓リハビリテーションに来られている患者様には、お薬の残数確認と患者様の理解度に合わせた指導を行うことで、服薬アドヒアランスの向上に努めています。主治医へのフィードバック、かかりつけ薬

局への情報提供など多職種と連携しています。

4階回復期リハビリテーション病棟で行われるIPWに週1回参加し、多職種との連携、情報の共有、処方提案等を行い、より安心・安全な薬物療法を行えるよう取り組んでいます。

ハートケア西宮わたなべ福祉の郷（介護老人保健施設）では、医薬品調剤（一包化・日付入れ）や持参薬鑑別による切れ日の確認、使用薬剤費を計算し、関係者にフィードバックしています。2024年6月から療養型機能有する病床26床の運用が始まりました。入所時に薬を評価・減薬の提案を行い、4週以上6種類以上内服されていた対象の薬が、退所時に減薬されている患者様には加算の算定を行っています。

グループホームてまりの家に関しては、整形外科や皮膚科の調剤（一包化・日付入れ）と、入居者様のお薬の確認・訪問薬剤指導を行っています。

活動内容

1. 外来業務

・院内処方箋発行率

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均(%)
令和4年	96.4	95.0	94.5	94.4	91.4	94.3	98.6	98.7	96.6	96.3	97.1	97.6	95.9
令和5年	99.1	99.6	96.3	94.4	93.8	97.2	94.0	94.8	95.0	92.9	92.3	95.4	95.4
令和6年	94.0	92.0	91.0	92.0	88.0	90.0	90.0	91.3	87.8	88.0	94.0	90.1	90.7
令和7年	93.5	94.0	90.0	95.0	89.0	93.0	91.0	88.5	92.0	90.0	89.0	92.5	91.4

現在は（皮膚科、美容形成外科、循環器内科の一部）で院内処方箋を発行しています。院内処方率は平均で91.4%と高い割合を維持しています。

・心臓リハビリテーション薬剤指導件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均(件数)
令和4年	9	7	8	5	6	7	6	6	6	5	6	5	6.3
令和5年	3	3	4	2	5	4	12	5	8	4	4	4	4.8
令和6年	1	3	2	4	4	2	4	3	1	2	3	3	2.6
令和7年	3	2	1	3	2	2	5	2	3	3	3	2	2.5

2. 医薬品安全管理・DI活動

「医薬品の安全使用のための業務手順書」を改訂しました。DI活動としては、医薬品の適正使用情報及び医薬品安全対策情報等のDIニュースを発行し、電子カルテでいつでも閲覧できるようにしています。

院内採用薬を見直し、院内医薬品集の改定を行いました。病棟や外来に配置している医薬品も定期的に使用期限チェックを行っています。医薬品管理に関する相談応需や提案も積極的に行っています。

3. 1次救急・有熱外来対応

外来の患者様に、新型コロナウイルス感染症治療薬やインフルエンザ治療薬を速やかに投薬できるように在庫管理・投薬時の支援を行いました。

4. 院内研修会の開催

医薬品安全管理研修会（医薬品安全管理責任者研修会）を7月30,31日に「インスリン等の取り扱い時の注意点について」を開催しました。

来年の目標

当院は西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院の外来と入院患者様、ハートケア西宮わたなべ福祉の郷、グループホームてまりの家を含む複合施設となっています。様々な状況に対応しながら幅広い年齢層の患者様に満足いただけるように、今後も先生方や西宮渡辺病院や西宮渡辺心臓脳・血管センターと連携しながら、業務を行ってまいります。

(林 香織)

リハビリテーション科(療法士チーム)

主任 妻谷 哲郎、加藤 育依

はじめに

西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院のリハビリテーション部門は、回復期リハビリテーション病棟チームと入所リハビリテーション・通所リハビリテーションチームで構成され、約30名が在籍しています。回復期・生活期・終末期とシームレスなりハビリ提供を行っています。

活動内容

回復期リハビリテーション

西宮渡辺心臓脳・血管センターをはじめ近隣病院から回復期段階の脳疾患や心疾患の患者様を中心に、専門的かつ集中的なりハビリテーションを提供しています。入院早期に、家屋調査や家族様を交えたカンファレンスを行うことで目標を共有し、退院後の生活に合わせたリハビリテーションの提供に努めています。退院が目標ではなく、退院後の生活に向け必要に応じた生活期リハビリ(通所リハ・訪問リハ)の介護サービス提案・提供を行います。就労を目標とした方へは、安心して働くことができるように障害者就労生活支援センターへの情報共有を行っています。

また、運動麻痺による歩行障害に対し、歩行能力再建に向けて入院早期より医師・義肢装具士・理学療法士が連携を取り、装具提案・作成・治療へ取り組んでいます。認知機能低下の予防、入院によるストレス軽減を目的に看護師と協力しレクリエーションや園芸を実施しています。

入所リハビリテーション

現在、介護老人保健施設「ハートケア西宮わたなべ」の入所定員数は76名であり、入所リハビリスタッフは理学療法士3名、作業療法士1名で構成され、医師・看護師・介護職員・ケアマネージャー・相談員と連携しながら支援を行っています。昨年から新たに看取り病棟が始まり、生活期から終末期まで幅広く、利用者一人ひとりの心身機能、生活背景、在宅生活を見据えた目標設定を行い、生活場面でのリハビリテーション(生活リハビリ)を重視し実施しています。

通所リハビリテーション

現在6名のリハビリスタッフを配置し、看護師・介護士と連携を図りながら生活期のリハビリテ

ーションを提供しています。食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練、日常生活動作訓練を行い、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう支援していきたいと考えております。

来年の目標

回復期でのリハビリテーション提供を充足させ、患者様の状態やニーズに合わせた退院後の生活を見据え、介護部門(訪問リハ・入所リハ・通所リハ)と連携を図り、安心して暮らせるよう支援していきます。

また、法人内のみならず地域に目を向け、広い視野を持って医療・介護サービスを提供できるよう努めます。

認定資格取得者

- ・認知症ライフパートナー (1名)
- ・登録理学療法士(1名)

年間行事内容

リハビリ科内勉強会

- ・FIM評価方法
- ・障害者に向けた就労支援について
- ・心不全患者に対する運動負荷について
- ・脳卒中後の鬱について
- ・症例検討会 他

院外研修会参加

- ・第36回兵庫県理学療法学会
- ・第23回日本神経理学療法学会

(妻谷 哲郎、加藤 育依)

栄養科

武内 海歌

活動内容

栄養管理

回復期リハビリテーション病棟では、高次脳機能障害や嚥下機能障害、麻痺を有する患者様が多く在院されております。リハビリの目的は在宅復帰であり、リハビリの効果は良好な栄養状態でこそ得られます。2024年より入院時には全ての患者様にGLIM基準による低栄養診断を開始し低栄養および低栄養予備軍を抽出し、入院中の栄養状態の維持・改善を目指しています。

入院中は食事摂取量や体重を基に、週に1度多職種で開催されるカンファレンスにおいて、多方面からの食事内容を検討し、その後の栄養計画を立案しています。

給食管理

入院時食事療養Ⅰを算定し、適時適温の給食提供を実施しています。2ヶ月サイクル献立を導入し、季節に応じた行事食やご当地献立を組み込んでいます。給食栄養委員会ではインシデント・アクシデント報告と対応策の他、患者様や多職種からのご意見を参考に、給食委託会社の協力も頂きながら食事内容に反映させています。食事は介護老人保健施設ハートケア西宮わたなべ、グループホームてまりの家、デイサービスの利用者様にも提供しております。

構成メンバー（2025年12月時点）

管理栄養士：常勤3人（病院1人、老健2人）

全面委託：(株)テストイバル
 管理栄養士1人、
 栄養士1人、
 調理師3人、
 調理補助8人

○2025年食事提供数

・西宮渡辺脳卒中・心臓リハビリテーション病院

普通食	34食/日(36%)	12,564食/年
特別食	46食/日(48%)	16,829食/年
経腸栄養	15食/日(15%)	5,359食/年
合計	95食/日(100%)	34,752食/年

・介護事業部(介護老人保健施設、グループホーム、デイサービス)

ハートケア西宮わたなべ	198食/日	72,616食/年
てまりの家	69食/日	25,240食/年
デイサービス	19食/日	6,855食/年

○栄養食事指導件数

延べ191件(外来：60件、入院：131件)前年に比べ83(外来36、入院47)件増加

○会議の運営

給食委員会 毎月第3金曜日

来年の目標

今年は、他職種連携を効率よく実施できるよう、①経口摂取へ移行できる対応方法、②経腸栄養剤施行患者への下痢対応フローチャートを作成しました。外来心臓リハビリテーションともさらに連携することで、栄養指導件数が大幅に増加しました。給食業務では4月よりコメ高騰に伴い米粒麦を導入、7月より切れ目のない栄養管理を実践するために、嚥下調整食4の提供を開始しました。

来年も引き続き他職種と連携を密にし、情報共有を行いながら個々に応じた栄養管理と栄養指導を実施して参ります。

(武内 海歌)